

外装

富士川のリニューアル工法
(弾性下地調整モルタルによるサイディング改修工法)
施工マニュアル

技-201012-002

富士川建材工業株式会社

2010年12月

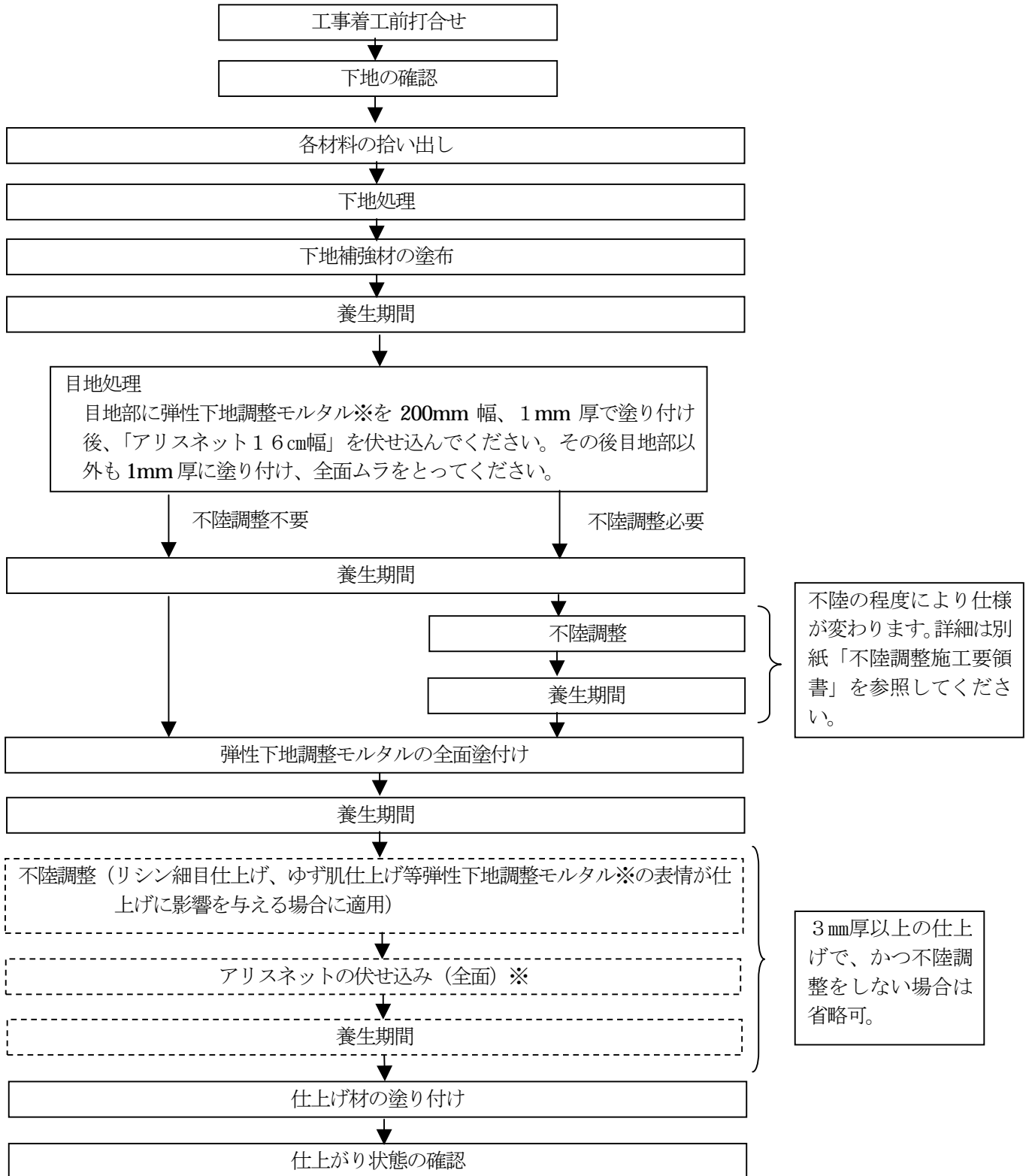
--	--	--

1. はじめに

この施工マニュアルは、窯業系サイディング下地を湿式外壁に改修する工法をまとめたものです。施工にあたっては、このマニュアルを遵守し、より高品質な外壁となるよう充分注意してください。

2. 施工の概要

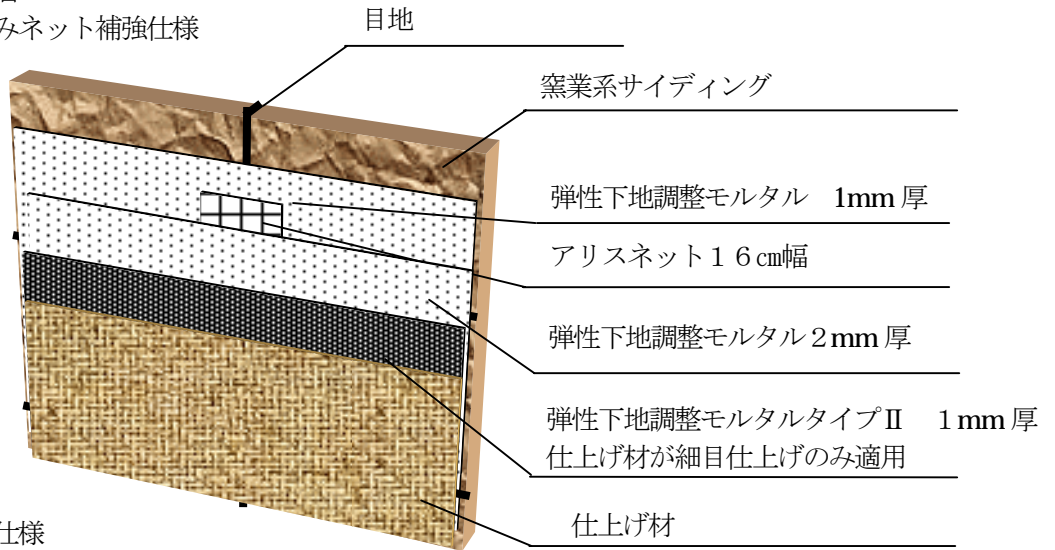
2.1 リニューアル工法の施工フローチャート



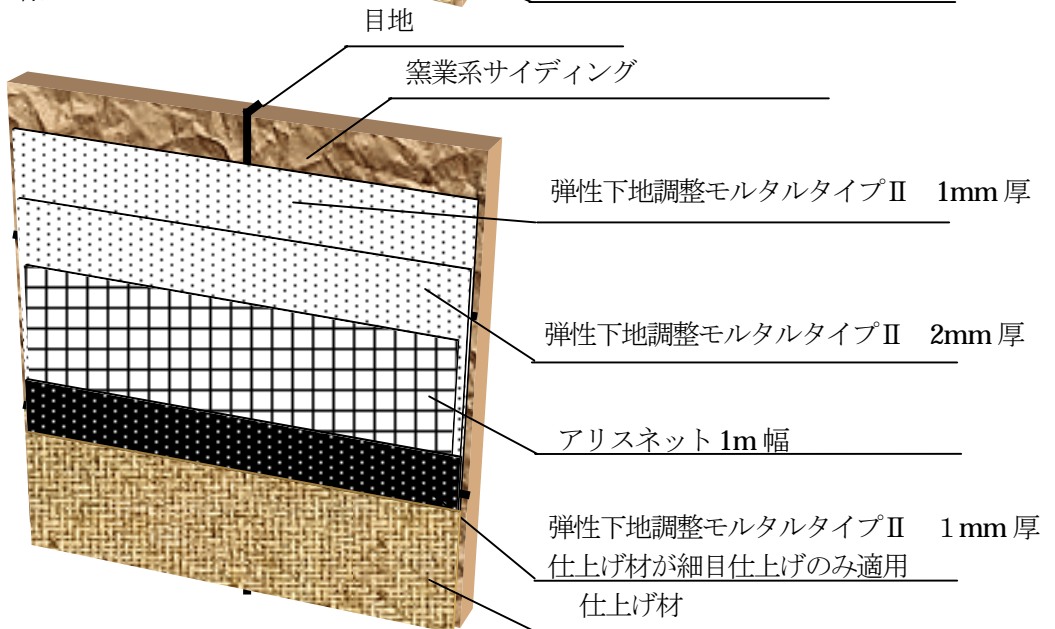
※全面アリスネット伏せ込みの場合は弾性下地調整モルタルタイプⅡを使用する。

①不陸調整が不要な場合

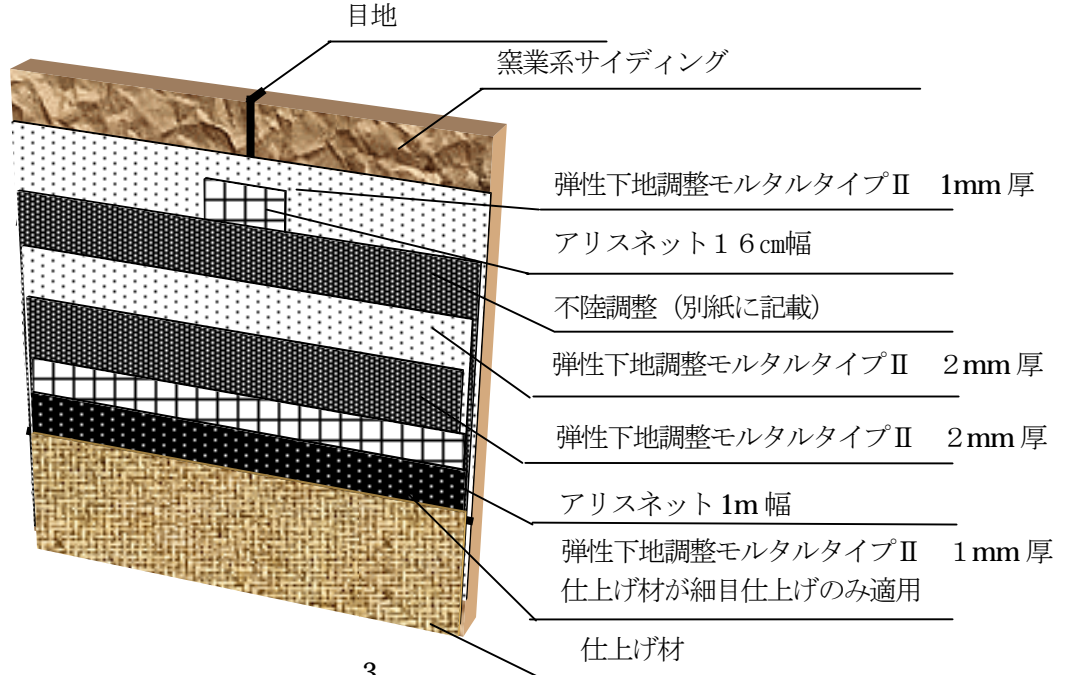
①-1 目地部分のみネット補強仕様



①-2 全面ネット仕様



②不陸調整が必要な場合 (目地部分ネット補強+全面ネット補強仕様のみ)



2.2 ネットの仕様の選択について

ネット施工方法として、次の2つの仕様があります。

①サイディングの目地部分のみのネット補強とする仕様

不陸調整が不要の場合に適用 →弾性下地調整モルタルを使用 ただし、表面下地調整（しごき塗り）のみ弾性下地調整モルタルタイプⅡを使用

②サイディングの目地部分補強に加え、全面ネット補強とする仕様

不陸調整が必要な場合、及びクラック低減強化仕様とする場合に適用 →弾性下地調整モルタルタイプⅡを使用（不陸調整、及びクラック低減強化仕様でない場合は全面ネット張りのみ）

2.3 仕上げ材と仕様について

①仕上げが薄塗り仕上げ（塗装、ゆず肌、リシン細目仕上げ等以外、塗り厚 概ね3mm厚未満）の場合は、下地調整（弾性下地調整モルタルタイプⅡによる全面薄塗り）が必要です。

②無機質仕上げ材（しっくいー白い壁、無機塗料ーハイブレスNP等）の様な追従性の小さい仕上げ材の場合はクラック低減強化仕様（全面ネット仕様）として下さい。

3. 施工方法

3.1 使用材料

埋込用左官定木	(下端 7・10・15・20・25mm)
下地補強材	○シーレックス AP 浸透性下地補強材 カチオン系アクリルエマルジョン 16kg/缶 100～160㎡/缶
下地調整材	○弾性下地調整モルタル 25kg (3層クラフト紙袋入り) 12.5kg (ポリ袋入り) 標準加水量：約4ℓ/25kg 3mm厚約8㎡/25kg 約4㎡/12.5kg
下地調整材 (全面ネット伏せ込み仕様) ネット張り付け材、表面下地調整材	○弾性下地調整モルタルタイプⅡ 25kg (3層クラフト紙袋入り) 標準加水量：約5ℓ/25kg 2～3mm厚約5.5～8㎡
耐アルカリ性ガラス繊維ネット	○アリスグラスファイバーネット (アリスネット) 1m幅 幅×長さ 1m×50m ○アリスグラスファイバーネット (アリスネット) 16cm幅 幅×長さ 160mm×50m
仕上げ材	○キャンドル：ハイブリッド型外装仕上材 ○ハイブレス NP：高透湿性無機質仕上材

3.2 施工前の確認

① 水切りの確認

通気工法でないサイディング場合には、水切りが取り付けられていない場合があります。この場合には、埋込用左官定木（下端 7・10・15・20・25mm）を取り付けてください。

② サイディング下地状態の確認

劣化したサイディングの状態を診断し、補修方法を選択します。

(A) ボードの変形破損留め付け状態の調査

- イ) 変形が 5mm 以下の場合は、次工程に進み 5mm 以上の場合は、変形部を胴縁間隔でカットし、できるだけ同厚・同幅の無塗装サイディング板と交換し、ジョイント部はコーキング処理を行います。
- ロ) 破損・欠損部は、できるだけ同厚・同幅の無塗装サイディング板と交換し、ジョイント部はコーキング処理を行いません。
- ハ) 留め付け釘の抜け・欠損は、ドリリングタッピンねじにより確実に締め留めます。

(B) 塗装サイディングの塗膜劣化状態の調査

- イ) 塗膜表面劣化を診断します。サイディング表面を手で拭き、手に白い粉が付くか調べます。粉が付いた場合（チョーキング）は、表層より劣化が始まっており強度不足です。浸透性下地補強材（シーレックス AP）2 倍希釈液の塗布を行い、下地を強化させます。
- ロ) 塗膜表面劣化がない場合（粉が付かない場合）は、サイディング内部の劣化を確認するため、クロスカット試験*を行い塗膜の付着強度確認を行いません。80/100 以下の場合は、浸透性下地補強材（シーレックス AP）2 倍希釈液の塗布を行い、下地を強化させます。81/100 以上の場合には浸透性下地補強材 3 倍希釈液の塗布を行います。

*注 クロスカット試験

定規とカッターナイフとセロハンテープを使い、サイディングに 1mm 間隔で 10×10mm に基盤目状カットを入れ、セロハンテープを貼り強く擦り密着させ、それを剥がした時に、テープに付着した塗膜数を数え付着強さを判定する試験です。剥がれがない場合 100/100 で表示します。

(C) コーキングの劣化状態の調査

コーキング材の劣化によるひび割れ状態により再コーキングを行うか決定しますが、原則として、補修程度で、劣化切除打ち返しは行いません。

イ) 弾性はあるが亀裂が深い場合、コーキング材を亀裂に入り込むよう充填します。



ロ) コーキング材の亀裂が浅い場合、浸透性下地補強材の塗布を行います。



ハ) ほとんど劣化のない状態



3.2 施工

①不陸調整が不要な場合

①ー1目地部分のみネット補強仕様

工 程	材料・調合	工 法	間隔 時間 (20℃)	塗厚 所要量 (希釈液を含まず)
下地処理	大工工事によるサイディングの浮き、不陸調整を行ってください。 下地表面のゴミ、砂塵、油脂分等の付着物を高圧水洗浄等で除去し、乾燥した清浄な面とします。コーキング材が劣化し、防水性能が低下している場合には再度コーキング材を充填してください。			
下地補強材の塗布	シーレックス AP 主材：16kg 2倍希釈液 主材：水 1：1	ローラー、刷毛、スプレー等で均一に2回塗布してください。1回目塗布後、十分に乾燥したのを確認後、2回目の塗布を行ってください。	1以上	0.1~0.16kg/m ² 100~160m ² /16kg
目地処理	弾性下地調整モルタル アリスネット16cm幅	縦横の目地部にコテ圧をかけながら弾性下地調整モルタルを200mm幅、1mm厚で塗り付け、直ちに目地部にアリスネット16cm幅を伏せ込み、その後、目地部以外にも塗り付けむらをとって平坦にください。	2以上	1mm
弾性下地調整モルタル全面塗り付け	弾性下地調整モルタル	コテ圧をかけながら全面塗り付け、平坦に仕上げてください。粗め仕上げの場合は仕上げ工事へ	1日以上 (上塗材の塗付をしない場合：7日以上)	2mm (目地処理部を含み3mm)
上塗材の塗付け	弾性下地調整モルタルタイプII	仕上げが塗装、ゆず肌、リシン細目仕上げ等の場合に適用。(粗めの仕上材の場合は不要) コテ塗りにて、弾性下地調整モルタルタイプIIを約1mm厚に塗り付け、ムラを取り、平坦に押さえて仕上げてください。	7日以上	1mm
仕上げ工事	仕上材の施工要領に従ってください。			

(注)上記の各数値は、全て標準のものです。施工方法、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。

①-2 全面ネット仕様

工 程	材料・調合	工 法	間隔 時間 (20℃)	塗厚 所要量 (希釈液を含まず)
下地処理	大工工事によるサイディングの浮き、不陸調整を行ってください。 下地表面のゴミ、砂塵、油脂分等の付着物を高圧水洗浄等で除去し、乾燥した清浄な面とします。コーキング材が劣化し、防水性能が低下している場合には再度コーキング材を充填してください。			
下地補強材の塗布	シーレックス AP 主材：16kg 2倍希釈液 主材：水 1：1	ローラー、刷毛、スプレー等で均一に2回塗布してください。1回目塗布後、十分に乾燥したのを確認後、2回目の塗布を行ってください。	1以上	0.1~0.16kg/m ² 100~160m ² /16kg
弾性下地調整モルタルタイプⅡ全面塗り付け	弾性下地調整モルタルタイプⅡ	弾性下地調整モルタルタイプⅡを約2mm厚に塗り付けムラをなおし、直ちに次工程へ	直ちに、次工程へ	2mm~3mm
アリスネット全面伏せ込み	アリスネット 1m幅	予め張りやすいように裁断したアリスネットを張付け、ネットの浮きが無くノロが表面に回るように木鏝やカネライトなどで十分押さえ込んでください。 ※ ネットの継ぎ目の重ねは50mm以上。 3mm以上の仕上げ材→仕上げ工事に進む	硬化後次工程へ (上塗材の塗付をしない場合：7日以上)	
上塗材の塗付け	弾性下地調整モルタルタイプⅡ	仕上げが塗装、ゆず肌、リシン細目仕上げ等の場合に適用。(粗めの仕上材の場合は不要) コテ塗りにて、約1mm厚に塗付け、ムラを取り、平坦に押さえて仕上げてください。	7日以上	1mm
仕上げ工事	仕上材の施工要領に従ってください。			

(注)上記の各数値は、全て標準のものであります。施工方法、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。

② 不陸調整が必要な場合（目地部分ネット補強＋全面ネット補強仕様のみ）

工 程	材料・調合	工 法	間隔 時間 (20℃)	塗厚 所要量 (希釈液を含まず)
下地処理	大工工事によるサイディングの浮き、不陸調整を行ってください。 下地表面のゴミ、砂塵、油脂分等の付着物を高圧水洗浄等で除去し、乾燥した清浄な面とします。 コーキング材が劣化し、防水性能が低下している場合には再度コーキング材を充填してください。			
下地補強材の 塗布	シーレックス AP 主材：16kg 2倍希釈液 主材：水 1：1	ローラー、刷毛、スプレー等で均一に2回塗布してください。1回目塗布後、十分に乾燥したのを確認後、2回目の塗布を行ってください。	1 以上	0.1～0.16kg/m ² 100～160m ² /16kg
目地処理	弾性下地調整モルタルタイプⅡ アリスネット16cm幅	縦横の目地部にコテ圧をかけながら弾性下地調整モルタルタイプⅡを200mm幅、1mm厚で塗り付け、直ちに目地部にアリスネット16cm幅を伏せ込んでください。その後、全面を1mm厚で塗り付けてください。	2 以上	1mm
不陸調整	別紙「不陸調整の施工要領書」に従ってください。			
弾性下地調整 モルタルタイプⅡ全面塗り 付け	弾性下地調整モルタルタイプⅡ	コテ圧をかけながら全面塗り付けてください。	1 日以上	2mm (目地処理部を含み 3mm)
ネット張り付 け材の塗付け	弾性下地調整モルタルタイプⅡ	弾性下地調整モルタルタイプⅡを約2mm厚に塗り付けムラをなおし、直ちに次工程に	直ちに、 次工程へ	2mm
アリスネット 全面伏せ込み	アリスネット 1m 幅	予め張りやすいように裁断したアリスネットを張付け、ネットの浮き無くノロが表面に回るように木鏝やカネライトなどで十分押さえ込んでください。 ※ネットの継ぎ目の重ねは50mm以上。 3mm以上の仕上げ材→仕上げ工事に進む	硬化後次 工程へ (上塗材 の塗付を しない場 合：7日 以上)	
上塗材の塗付 け	弾性下地調整モルタルタイプⅡ	仕上げが塗装、ゆず肌、リシン細目仕上げ等の場合に適用。(粗めの仕上材の場合は不要) コテ塗りにて、弾性下地調整モルタルタイプⅡを約1mm厚に塗り付け、ムラを取り、平坦に押さえて仕上げてください。	7 日以上	1mm
仕上げ工事	仕上材の施工要領に従ってください。			

(注)上記の各数値は、全て標準のものです。施工方法、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。

注意事項

○使用上の注意

- (1) 施工しない箇所は、前もって養生シート、その他で材料が付着しないように養生してください。
- (2) 下地調整には弾性下地調整モルタルタイプⅡを使用してください。他の材料の使用はクラックが生じる場合があります。特に、RC用のしごき材・補修材の使用は避けて下さい。

○気象条件

- (1) 施工場所の気温が5℃以下の場合は施工を避けるか、適切な保温措置を行ってください。
- (2) 外部の施工で降雨、降雪の場合又はそのおそれのある場合及び強風時は施工を避けるか、十分な養生を行ってください。
- (3) 白華した場合は酸洗い又は水洗いし、シーレックス 5 倍希釈液を塗布してから施工してください。白華の上から塗材を塗布した場合は、剥離等の問題を生じる場合があります。

○材料保管

- (1) 材料は、直射日光下及び5℃以下での保管は避けてください。
- (2) 弾性下地調整モルタル、及び弾性下地調整モルタルタイプⅡの有効期間は、標準状態で製造日より3ヶ月以内としてください。